

地球環境情報プラットフォームの更なる強化 に向けた検討会の概要 及び議論を踏まえた今後のDIASへの期待

株式会社三井物産戦略研究所 国際情報部 シニア研究フェロー
「地球環境情報プラットフォーム構築推進プログラム」(DIAS) 事業
プロジェクトマネージャー

本郷 尚

地球環境情報プラットフォームの更なる強化に向けた検討会

【趣 旨】 「地球環境情報プラットフォーム構築推進プログラム」(DIAS) 事業において、将来の知的集約型社会を見据え、Society5.0時代における地球環境情報プラットフォームをより一層強化していくため、情報プラットフォームが産学官に更に利活用されるための方向性や学術・産業分野にどのように貢献できるか、またそのための体制のあり方など、様々な分野の若手有識者と意見交換を行う。

【開催日】 2月 3日、17日、18日(研究者)
2月20日(産業界)

【参加者】 研究者：気象・気候、防災、農業、水文、環境政策、ICTなど
産業界：電力、林業、漁業(サービス提供)、製造業、コンサル(土木、金融)など
※文部科学省、DIAS関係者も同席

【議論の前提】

- DIASの3つの機能：データ
計算能力(ハード、ソフト)
研究プロジェクト、サイエンスの基盤
- 産業界への期待：エンドユーザーとDIAS(生データ、情報)をどう繋いでいくか。
 - ・エンドユーザーのニーズは何か、どう想定するか。
 - ・どのようなデータ・情報が期待されるか。
 - ・それらを繋ぐための役割として、組織・機能はどうあるべきか。
- その他：個人の意見、非公開(チャタムハウスルール)
意見の集約を図るものではない、環エネ委員会で報告

座長所感・今後のDIASへの期待

- **サイエンスの基盤・ストレージ機能への期待**
 - ✓ 共通認識。日本としてのDIASの役割を考え、格納すべきデータを考える必要がある。
 - ✓ 他との連携などの工夫を前提としても、ストレージの拡充を続けていくことは重要。
- **ICT専門家の拡充**
 - ✓ データ、計算機能、研究の3つが揃うことがDIASの強み。3つの機能をつなぐのがICT専門家の拡充が必要。
- **連携の重要性**
 - ✓ 他のプラットフォームや民間との連携が必要。
 - ✓ “How”が課題。
- **社会への貢献**
 - ✓ DIASで今まで培ってきた成果・実績を活かした社会へ貢献
 - ✓ 効率的に進めるためにユーザーの絞り込みと裾野の拡大を並行して行う必要がある。効果的なアウトリーチが必要。
 - ✓ ソリューション開発には研究者と民間の協力が必要。研究助成があることが望ましい。